

「キリストの願い、私の願い」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

以前、教会の有志で“心の渴望”というフーストン師の本を読書会で取り上げたことがありました。10年以上の前のことです。その会で私たちのうちにある様々な願いを探求しながら、それが神との交わりを飢え渴く願望へと変えられていく幸いを学びました。

あれから10年… きみまろではありませんが、あの時の感動は何だったのか…改めて自らに問い返した時、正直何も覚えていません。今朝は、そんな自分に対して自戒の念を込めて、神が私たちに願っていることについて一緒に考えでみたいと思います。

朗読 マルコ1・40～45

重い皮膚病を患っている人をいやす

40 さて、重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。41 イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、42 たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった。43 イエスはすぐにその人を立ち去らせようとし、厳しく注意して、44 言われた。「だれにも、何も話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたものを清めのために献げて、人々に証明しなさい。」45 しかし、彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。それで、イエスはもはや公然と町に入ることができず、町の外の人のない所におられた。それでも、人々は四方からイエスのところに集まって来た。

導入

ヨハネからバプテスマを受け、神の国の福音宣教を開始したイエス様は、当初、ガリラヤにあるユダヤ人の会堂で宣教し、悪霊を追い出しておられたとマルコの福音書1:40に記されていますが。

イエス様はやがて会堂を出て、人々に神の国の福音を宣べ伝えるようになりました。そんなイエス様のもとへ重い皮膚病（ツアラアト）を患っていた男がやって来て訴えたのです！

男の台詞に着目！「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」

意識

あなたが願うなら、私をきよくして下さることができます。

ずいぶんと奥歯に物がはさまったような言い回しに聞こえますが。何故、男はこんな言い方をしたのか。それは、男がその身に負っていた病と無関係ではありません。

男が患っていた皮膚病（ツアラアト）は、ユダヤ人にとってその当事者との交流を禁じられた宗教的な穢れとして認識されていました。それは医者ではなく祭祀によってきよめられたか否かを判断される類の病でした。早い話し、ツアラアトは祭司がとりなし、神が癒す病いとして認識されていたのです。

参照レビ 13.14 章

だから「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」という男の文言の真意は、“あなたが願うなら、神はあなたの執りなしに応じて私をきよくして下さいます”という意味になります。

つまり男は、イエス様は力ある祭司だと信じていたのです。

今、申し上げたことに関連してツアラアトについて興味深い聖書の物語を紹介します。

旧約聖書民数記 12:1～6 にある記事です。

要約すると、モーセが異邦人の妻のゆえに、また彼が独占的に神の言葉を語り、その指導力をイスラエルの民に発揮していたことに不満を抱いた兄アロンと姉ミリアムがモーセを非難する事件が起きました。そのことで主なる神が憤りました。その結果、ミリアムの身に（ツアラアト）が生じてしまいました。それで心を痛めたモーセが姉のために主に執りなし、主がミリアムを7日後に回復させたのですが。この出来事が証していることは、（ツアラアト）は神に取りなすべき人、例えばモーセのような人物が取りなすなら、それは癒されるということです。

イエス様は、ツアラアトに苦しみ悩む男の願いに応じて、男をきよくして差し上げました。彼を憐み、彼に触れてツアラアトを癒したのです。

これでめでたし、めでたし！とならないのが世の常。ここでイエス様が不可解なことをおっしゃったのです。

43 イエスはすぐにその人を立ち去らせようとし、厳しく注意して、44 言われた。「だれにも、何も話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたものを清めのために献げて、人々に証明しなさい。」

何故、イエス様は男の身の上に起きたことを口外せず、祭司にその身体を見せてきよめための捧げものをせよ！と命じ、ご自分がなされたことを人々に言いふらすなと命じたのか。

それはおそらく男の身の上に起きたことが知れ渡るとイエス様について心良く思わない人々やイエス様に誤った期待を抱く人々を必要以上に刺激し、その結果、ご自身の宣教の働きが妨げられることを危惧したからではないでしょうか。

しかし、イエス様の警告も虚しく男は自分の身の上に起きたことを周囲の人々にペラペラ告げ回ったのです。おかげで、イエス様に熱狂する群衆と敵対心を燃やす人々がイエス様の元へ押し寄せたためイエス様は、表だって町に入って宣教できなくなりました。1:45

メッセージの核心

何故、男はイエス様の言付けに聞き従わなかったのか。

この問いの答えが、今朝のメッセージの核心ポイントです。

何故、男はイエス様の言付けに聞き従わなかったのか

それは、男がイエス様の願いを知ろうとしなかったから。

イエス様の願いとは何だったのか。

それは…

彼が神の憐みを知ることでした。

イエス様は、ツァラトに苦しむ男の姿にはらわたを引きされるような痛みを覚え、彼の苦しみをご自分が代わって引き受けることにより彼をきよくしました。それは、ただただ神の憐みから出た行為でした。イエス様は、男にこの神の憐みを知って欲しかったのです。

しかし男はイエス様の願いを知ろうとしなかった、知らなかった、だからイエス様の命じたことを無視したのです。

何故、イエス様は男に神の憐みを知ることを願ったのか。それは、神の憐みを知ることなしに、人は罪を悔め、神のみ心に従い、神と共に生きることを望まないこと知っておられたからです。

このことについて旧約聖書ホセア書の一節にこう記されています。

ホセア書6：6にこの表現が見出されます。

『わたしはいつくしみを喜び、犠牲を喜ばない。燔祭よりもむしろ神を知ることを喜ぶ。』

神を知るとは、神の憐みを知ることと同義語です。

人生で、私たちがひたすらにイエス様の願い、すなわち神の憐みを知り、神のみ心に従い、神に生きることを願いを求めて生きるなら、私たちの人生は神の慈しみによって満たされ、しあわせな人生を歩むことができます！

憎しみ、怒り、恨み、虚しさ、悲しみ、不安に苛まれて生きることは決してありません！
みなさん、共に主イエス様の十字架を仰いで生かしてくださいませ。
イエス様の十字架を仰ぐ人は、いつでもイエス様の願いである神の憐みを覚えて生きることができます。
神の憐みに生きるとき、人はどんな苦しみ、困難にも打ち勝つ幸いな人生を歩むことができますから！

祈り